



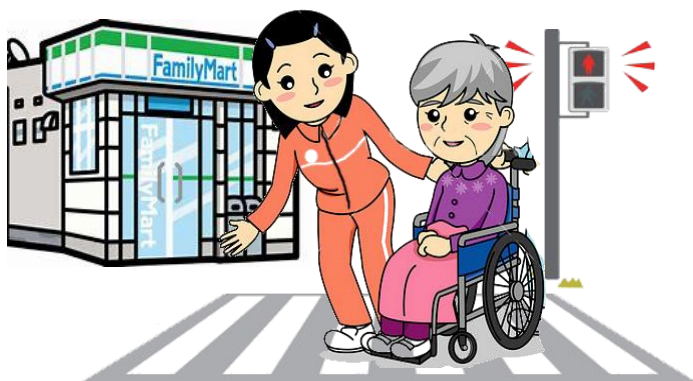
地域の方からうれしい声が届きました

11/30(木)、市役所でおこなわれた校長会議に出席しました。その会議で青少年センターの鈴木所長さんと教育委員会の岡田教育部長さんから、**形原中の生徒についてのうれしい話**を聞くことができました。

所長さんは、青少年センターに届いた**地域の方からの投稿**について話されました。

形原中の女子生徒さんが、ファミリーマート春日浦店前の横断歩道で、車椅子に乗った方がカバンを落とされた際、親切に拾い上げ、信号が赤に変わっているにもかかわらず、車椅子の方を道路脇まで誘導してくれました。

非常に感動・感激しました。



また、部長さんは、ご自身が**通勤途中にみかけられた出来事**について話されました。



形原神社前の横断歩道を渡っていた形原中生が、止まってくれた車に対して、振り返ってお辞儀をして、お礼を言っているところをみかけました。

その行動に対して、車の運転手さんも笑顔で応えていました。朝から爽やかで、すがすがしい気持ちになりました。

同じ会議で2度も形原中生の素敵な行動が話題になり、校長として鼻が高く、大変うれしく思いました。改めて、**本校の生徒たちの優しさや温かさを感じる**ことができました。ありがとうございます。

2つの目の話を聞いて、ある新聞記事を思い出しました(裏面新聞記事参照)。それは、**徳島県のある横断歩道の話**です。その横断歩道は、坂道の途中にあり、車のスピードが出やすく、止まりづらい危険な場所でした。それが、ある時を境に通る車の90%が、歩行者に対して一時停止する安全な横断歩道に変わったのです。 ～裏面に続く～

運転手のマナーが向上した理由は、道路標識や信号機の設置などの対策を取ったからではありません。なんと、横断する**子どもたちが、止まってくれた運転手に感謝を込めてお辞儀をするようになったから**だということです。ある時、たった1人の誰かが始めたちょっとした心温まる行動(お辞儀)が、徐々に周りの人の心に浸透し、最後は地域のみなさんの心まで温かいものに変えてしまったという驚くべき出来事です。

今回、形中生がおこなった「人に親切にする」とか「人に感謝する」という行動が、この新聞記事のように、ふるさと形原にも広がっていくといいなと思いました。

さて、明日から冬休みです。普段より**たくさん自分の時間**が取れると思います。3年生のみなさんはそれどころではないと思いますが、できれば読書やスポーツ、趣味やボランティアなど、普段できないことに挑戦してみてください。長期休業は、いろいろなことを経験でき、**人としての幅を広げるチャンス**だと思います。

そして、毎回言っていますが、「**絶対死ぬなよ!**」の合言葉を守ってください。冬休みは「クリスマス」「大晦日」「お正月」など、他の休みと比べても楽しいイベントが目白押しです。楽しいと人は気が緩みがちになり、危機管理意識も鈍くなりがちです。気を付けてください。

卯年は、「新しいことに挑戦する飛躍の年」と言われます。今年のみなさんにとってどんな年だったでしょうか。来年、私は年男(辰年生まれ)で還暦(干支が一巡)です。みなさんと一緒に良い年にしていきたいと思います。

それでは、みなさん良いお年を！ 来年の1月9日(火)の始業式にお会いしましょう。

9割の車が一時停止する横断歩道、理由は児童の「おじぎ」

徳島県美馬市脇町の横断歩道に下校途中の児童がやってきた。信号機はない。通りがかった車は手前でしっかりと減速し、きちんと一時停止した。手を挙げて渡った児童は車の方に向き直り、ぺこりと頭を下げた。児童らが横断歩道にさしかかるたびに車は止まり、同じような光景が繰り返された。警察署によると、この横断歩道は一時停止率が90%を超える。



横断歩道は坂になっていて、車にとってはスピードが出やすいため、数年前までは危険な横断歩道と認識されていた。それが、突然安全な横断歩道に変わった。運転者のマナーが向上したためだが、その理由として住民が挙げるのは、児童の「お辞儀」だ。

近くに住む女性(78)は「子どもたちがお辞儀をする姿がかわいらしく、止まらなければ、と思う」と話す。3年生の児童は「車はいつも止まってくれるので、ありがとうという気持ちでお辞儀している」とにっこり。ただ、学校ではお辞儀をするように指導したことはなく、上級生の姿を見るなどして自然に広がったのではと推測する。

県内では、信号機のない横断歩道での一時停止率の低さが課題になっている。県警は「児童のお辞儀などによって、歩行者保護の意識が地域全体に浸透してきたのではないか。こうした事例を他の場所でも増やしていきたい」と注目している。

～令和3年8月2日 徳島新聞より～